子どもたちが
自らの可能性を
広げられる
社会を目指して

公益財団法人ベネッセこども基金

アニュアルレポート 2022

報告対象期間：2022年4月～2023年3月

自主事業

ICTを活用した学び支援

助成事業

助成交流会・研修などの
非資金的支援・助成のあゆみ

発信活動

ミニシンポジウム
「MeetUp」の開催

私たちは、未来ある子どもたちが
安心して自らの可能性を広げられる社会を目指し、
子どもたちを取りまく社会的な課題の
解決および多様な学びの機会の提供に
取り組んでいます。

理事長ごあいさつ

ベネッセこども基金は、2014年の設立以来、「子どもたちが自らの可能性を広げられる社会」の実現を目指し、子どもを取り巻く社会や学習環境の改善に取り組んでまいりました。ご支援、ご助力いただきました皆様には、深く感謝申し上げます。

助成事業では「経済的困難を抱える子どもの学び支援」「重い病気を抱える子どもの学び支援」の2つのテーマで助成を引き続き実施しました。これまでの積み上げにより、モデル性のある団体の取り組みが地域に根付きつつあることに一定の成果を感じつつも、子どもに関わる課題の深刻化に、解決のスピードが求められていると改めて感じます。団体の皆様と課題を共有しながら、活動がより前進するよう、伴走支援にも努めてまいりました。

自主事業においては、学校での「ICTを活用したまなび」実施トライアルに加え、ダイバーシティ＆インクルージョン教育の公教育への推進など、新たなテーマにも取り組みました。

2022年にはこども基本法が成立し、2023年4月に施行されました。こども家庭庁も発足し、子どもに関する取り組みを大きく変えていく環境が整ってきています。ベネッセこども基金でも、子ども支援のあり方はどう変わっていくべきかについてシンポジウムを開催しました。
今後も、子どもたちへの支援のありかたを考え、biopsychosocialのいずれの面においても子どもたちが健康で幸せな社会を実現するための活動を進めてまいります。

今後とも皆様からのご支援・ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人
ベネッセこども基金　理事長
五十嵐 隆

東京大学医学部医学科卒業。同小児科、遠州総合病院、清瀬小児病院、Harvard大学Boston小児病院、東京大学大学院医学系研究科小児医学講座小児科教授、副院長、東京大学教育研究評議員を経て現職。
こども環境学会会長、ドナルド・マクドナルド・ハウス財団理事長、中山人間科学振興財団理事長、日本保育協会理事、日本小児医学研究振興財団理事など。

ベネッセこども基金
2022年度の主な取り組み

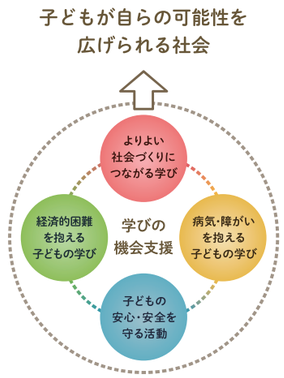
自主事業

病気・障がいを抱える子どもの学び支援 …… 3
- ICTを活用した学び支援

子どもの安心・安全を守る活動 …… 7
- ネットリテラシー教育プログラムなどを学校に無償提供

経済的困難を抱える子どもの学び支援 …… 7
- 「学びの質」向上につなげる教材の普及と検証

よりよい社会づくりにつながる学び支援 …… 8
- 公教育におけるインクルーシブ教育の推進
- 中高生による当事者研究と社会モデルの推進
- 高校生英語ディベート世界大会の企画・運営



助成事業

○ これまでの取り組み …… 9

経済的困難を抱える子どもの学び支援 …… 11
- 高校生・若者の自立をみすえたサポート
- 児童養護施設職員の充足による体制づくり

重い病気を抱える子どもの学び支援 …… 15
- 重い病気をかかえる子どもの学びサポート
- 「こどもホスピス」をつくり学びや育ちを保障

こどもを取り巻く社会問題の発信活動 MeetUp …… 19

自主事業

自主事業は、ベネッセこども基金が企画・実施し、
子どもたちを支援する事業です。
志を同じくする方々と共に、4つのテーマに取り組んでいます。

- 病気・障がいを抱える子どもの学び支援
- 子どもの安心・安全を守る活動
- 経済的困難を抱える子どもの学び支援
- よりよい社会づくりにつながる学び支援

病気・障がいを抱える子どもの学び支援

PICK UP

ICTを活用した学び支援

現状と課題

病気そのものや、
同世代の交流機会・体験不足からくる不安

治療や療養生活に対する不安

治療自体のつらさや治療による容姿の変化など、自分ではコントロールできないことが続くことでの無力感などが起きやすくなります。

成長する中での不安

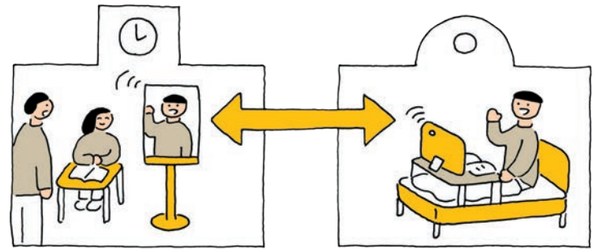
思うように活動できないことによる意欲の減退や、自信喪失により、様々な事柄に対して消極的になりやすくなります。

経験不足からくる不安

同世代の子どもたちと比べて、遊びの体験や行事などに参加する体験の機会が少なく、社会経験が不足しやすくなります。

取り組み

ICTで、入院中・療養中でも
学校とつながれる遠隔授業の実施



7年間にわたり、病院や自宅にいながら授業を受けられたり友だちと交流できる環境づくりに挑戦してきました。

7年間の取り組み

2015年度 ～ 2019年度

分身ロボットOriHimeで
「通学」する取り組み

東京都の病弱教育拠点5校と連携し、分身ロボットOriHimeを活用した学び支援のプロジェクトを実施。病室にいる子どもたちが、OriHimeを通じて授業に参加したり同級生との交流をするなど、5年間で400回のケースを積み重ね、東京都で予算化もされました。

子どもの
しぐさを表現できるOriHime。
より一緒に学んでいる感覚に。

OriHimeを通じて
卒業式にも参加

2020年度 ～ 2021年度

教室と病気の子どもを
「確実につなぐ」取り組み

継続した学習を行うために、より安定した通信環境を提供することで、子どもと教室を確実につなぐ事業を実施。療育や医療の専門家とともに、特別支援学校へwifiを提供、33校28事例の授業実践をしました。

移動できる
アバターロボット「temi」を
通じて、同級生とともに
教室を自在に移動。

2022年度

汎用的な「学び支援モデル」の
創出及び拡大の3か年プランに着手。

より学校に導入しやすい汎用モデルをつくり、特別支援学校への導入を拡大するために、ITスキルの高い一般財団法人ニューメディア開発協会と共同事業を開始。汎用モデルを模索し、成功事例を積みあげる年に。

取り組み事例

「学び支援モデル」の模索と成功例の積み上げ

2022年度は、IT技術で先駆的な（一財）ニューメディア開発協会とともに、ICTを活用した学び支援に理解や意欲のある特別支援学校 11校と連携し、アバターロボットの事例の積み重ねや、メタバースを使ったトライアルを実施。

Avatar Robot
アバターロボットでまなびに参加

用途に合ったタイプのアバターロボットを駆使し、
病気の子どもたちが病院や家から授業に参加。
先生方の粘り強い取り組みと様々な工夫で、子どもたちの笑顔がはじけました。

自走型アバターロボットとお買い物

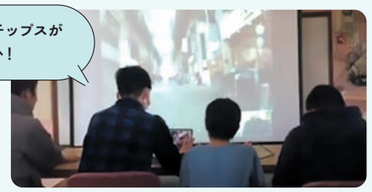
京都市立呉竹総合支援学校／京都市立桃陽総合支援学校連携（課外学習）

心臓などの障がいで外出が難しい高等部の生徒たちが、自走型アバターロボット「temi」を使い、買い物をする体験をしました。「temi」を通じて、商店街の人たちと会話をしたり商品を選んだり。「好きな食べ物を買うことができた」「色々な人と挨拶ができた」と、学校から出ることが難しい生徒達の経験値をあげることができました。

自走型
アバターロボット
temi

自由に移動ができて、どこへでも行ける！

先生、ポテトチップスが買いたい！



オッケー、お菓子屋さんにいってみるよ！

可搬型アバターで『家から冬をさがしにいこう』

大阪府立刀根山支援学校（課外学習）

心臓移植後に在宅療養をしている小学1年生が、アバターロボット「Telepii」と公園で冬を探す生活科の授業に。手軽な「Telepii」で、高い位置の観察も楽々。外出できない状況でも、冬の木々の様子など細かく観察することができました。途中、国語で学習した「はたらく車」を見つけて、より授業が深まりました。

可搬型
アバターロボット
Telepii

360度、見たいところが見られる

▲先生が風景を中継

枯れ木に見えていたけどつぼみがついている！

▲屋内から操作して観察

アバターロボットの利用事例はこちらからも！

Metaverse
メタバースで学校自慢

アバターになってどこからでも参加できるメタバース空間。
先生や子どもたちの趣向を凝らした展示会が開催されました。

先生の「学校自慢島」

特別支援学校の先生がたが、メタバース上に3Dの島を作り、学校自慢をする「学校自慢島」。ネタを仕込んだり、ほかの学校の表現にライバル心を燃やしたり、楽しみながらコンテンツを作りました。全くやったことのない先生がたも活動を通じてスキルアップ！できるようになるともっとやりたいと思うのは大人も子どもも一緒のようです。

マスコットのいる
光陽島
大阪府立
光陽支援学校

真ん中にいるのがマスコット「こうやん」です！

名所を設置した
桃陽島
京都市立
桃陽総合支援学校

まっすん大仏像

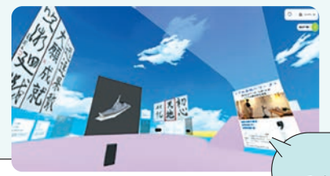
願いの像

先生が扮した大仏、願いの像、たくさんの名所があって盛り上がっています。

「宝物島」でかくれんぼ

子どもたちが作った作品や宝物が展示されている「宝物島」。観客はアバターになって自由に見ることができます。特大サイズになっている作品は、中に入ったり裏に回ったりもでき、かくれんぼもできます！　自分の作品が3Dになったり迫力満点で展示されている様子に子どもたちも大喜びでした。

宝物島
狛江市立狛江第三小



迫力満点！みんな輝いています。

アバターを、病気や障がいを乗り越える力に

一般財団法人
ニューメディア開発協会
新情報技術企画グループ
グループ長
林充宏 さん

取り組みを通じて

生まれながらに歩けない子どもが、メタバース空間で「先生、ぼく、この中で走れるんだよね！」と。このシーンは本当に感動的でした。最新ICTを使い、いろいろな事情で活動範囲が限られている子どもが笑顔になり、ソーシャルスキルアップにつながるのが私どもの活動です。

2023年度に向けて

デジタルで誰一人取り残されない共生社会の実現を目指し、“特別”な支援が必要な子どもだからこそ体験できる“特別”な「最新 ICTを使ってのワクワクドキドキの世界」を皆さまとつくっていきたいです。

子どもの安心・安全を守る活動

教育プログラムを、学校などへ無償提供

子どもの安心・安全な環境づくりのための支援プログラムの無償提供を、財団設立当初から実施しています。ネット利用の低年齢化により、学校現場からのネットリテラシー教育へのニーズが高まっています。

防災 保育園・幼稚園向け

防災教育紙芝居
「じしんのときのおやくそく」

防犯 小学校 低学年向け

子どもの安全・安心
ハンドブックと
安全教室実施パッケージ

ネット 小学校 中・高学年向け

初めてのスマホ安心
ガイドブックと
安全教室実施パッケージ

シリーズ累計 のべ約120万部※

※2023年3月時点

2023年度は 学校現場以外も含め、より多くの方に活用いただけるよう、引き続き普及の拡大を目指します。

経済的困難を抱える子どもの学び支援

助成団体の共通課題の解決に貢献するために、知見あるセクターと協業して支援施策に取り組んでいます。

「学びの質」向上につながる教材の普及と検証

経済的に困難な状況にある子どもの学習支援領域において、先進的な団体「認定NPO法人キッズドア」と連携して、「学ぶ意欲」と「言葉の力」の向上をねらいとした中学生向け教材を制作し無償配布。同じ課題を抱える全国の団体に活用いただきました。

KIDSDOOR 認定NPO キッズドア

連携

公益財団法人ベネッセこども基金

支援者の育成にも役立ったとのお声も!

2023年度は 学びの質向上・課題の社会発信に取り組みながら、助成団体間の知見の交流を後押しし、団体共通課題の解決を支援していきます。

よりよい社会づくりにつながる学び支援

先進的な取り組みを行っている団体とともに、子どもたちが、地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一員としての役割を果たすことができる力を育む活動をしています。

公教育における インクルーシブ教育の推進

5つの自治体の教育行政担当者とともに、視覚のない世界を体験する「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」などを通して、多様性を尊重し、それぞれに所属感のある学校の在り方を検討。「学校はマジョリティ優位な環境になっている」「大人側の意識が変わらないといけない」などの課題意識や、実践の提案が活発になされました。

各自治体での取り組みの紹介も

中高生による当事者研究と障がいの社会モデルの推進

株式会社リバネスが主催する中高生のための学会「サイエンスキャッスル」にて、教員向け特別セミナー「身近に取り組むダイバーシティ＆インクルージョン研究のススメ」を開催。今まで個人の問題とされてきたマイノリティの困難を、中高生自身による「当事者研究」（自分研究）を通して社会で解決する試みを中高の教員の方々とともに実施していきます。

多くの先生が興味を持ってくださいました。

高校生英語ディベート世界大会の企画・運営

ベネッセこども基金では一般社団法人全国高校英語ディベート連盟（HEnDA）の国際委員会と共同で、高校生英語ディベート世界大会（WSDC）の日本代表チームの国際大会への派遣事業などを企画・運営しています。今年は、目標の一つであった予選トーナメント突破を見事達成し、世界大会で2年連続好成績を収めました。

予選ラウンド5勝3敗で、2年連続好成績!

2023年度は 2022年度に開始したダイバーシティ＆インクルージョンをテーマにした取り組みを、自治体や学校で広がるように活動して参ります。

助成事業

助成事業は、子ども支援に取り組む団体への助成を通じて
子どもたちを支援する事業です。
志を同じくする方々と共に、3つのテーマに取り組んでいます。

- 経済的困難を抱える子どもの学び支援
- 重い病気を抱える子どもの学び支援
- 被災した子どもの学びや育ちの支援

支援領域

困難な状況でもよりよい学びができることを目的に、教科学習だけでなく、体験学習や文化的な学びも、また、直接的な学習支援だけでなく、学び以前の課題まで広く支援対象としています。

経済的困難を抱える子どもの学び支援例

- 学習支援
- 外国ルーツの子ども
- 学びの意欲向上
- 訪問支援
- 子どもの居場所
- 支援基盤整備

重い病気を抱える子どもの学び支援例

- 学習支援
- スポーツ・文化体験
- 病気への理解支援
- 食育
- 調査・啓発
- 学びの意欲向上

非資金的な支援

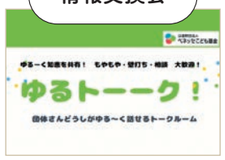
助成団体の皆様が、助成終了後も事業を継続し、子どもたちを支援し続けられるよう、同じ思いの人をつなぐ・話す・インプットの機会をつくる伴走支援を行っています。

団体をつなぐ

交流会

▲活動中の団体が分野別に集まる交流会。1泊2日で、取り組みやノウハウなどを共有します。

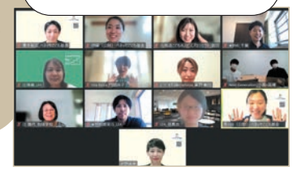
情報交換会



▲オンライン開催の情報交換会。任意参加で、気軽に相談ができます。

学びの場をつくる

研修・ワークショップ



▲22年度事業評価研究会の様子。専門家を招いての研修やワークショップを実施。参加は希望制です。

助成のあゆみ

2015年に公益財団法人に移行してから 7年間、3つの分野で助成を実施してきました。次々と変化する子どもたちの学びや育ちの課題に、多くの団体とともに取り組んできました。

		経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成	重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成	被災した子どもの学びや育ちの支援
2014	財団設立	募集開始 子どもの貧困対策法		
2015	公益財団法人に移行	12団体	募集開始	10団体
2016		児童福祉法改正 13団体	7団体	熊本地震 49団体
2017		13団体	8団体	8団体
2018		複数年助成募集開始 より腰を据えて課題に取り組める環境に。 12団体	8団体	西日本豪雨 29団体
2019	設立5周年	7団体	7団体	台風19号 12団体
2020		6団体	6団体	令和2年7月豪雨 8団体
2021		7団体	医療的ケア児支援法 7団体	
2022		6団体	8団体	

支援団体合計 のべ270団体

- 経済的困難を抱える子どもの支援活動：103団体
- 重い病気を抱える子どもの支援活動：51団体
- 被災した子どもの学びや育ちの支援：116団体

支援金額合計 3.9億円

- 経済的困難を抱える子どもの支援活動：2.2億
- 重い病気を抱える子どもの支援活動：0.7 億
- 被災した子どもの学びや育ちの支援：1億

経済的困難を抱える子どもの学び支援

経済的な困難を背景とした子どもの学びや育ちの課題に対して、支援団体の事業基盤の強化や新たな事業へのチャレンジなど、中長期視点で課題に取り組む団体の活動に対して、最大3カ年の助成を実施しています。

- 子どもの貧困 約7人に1人※1
- 高等学校の中途退学者 約4万人※2
- 社会的養護児童 約4万2千人※3
- 外国ルーツの子ども 約13万人※4

いわゆる「子どもの貧困」の社会的認知が広まる中で、近年は子どもたちのための安心安全な居場所やこども食堂、学習支援活動などが増えてきました。
このような活動をきっかけに、子どもが様々な学びや体験に触れられたり、より専門的な支援につなげられるケースも増えてきています。ただ、外国ルーツの子どもや社会的養護の子ども、また高校生年代以降の支援が依然として不足しています。

※1　出典：令和３年子供の生活状況調査の分析（こども家庭庁）出典：2019 年国民生活基礎調査（厚生労働省）
※2　出典：令和３年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）
※3　出典：令和５年４月５日 社会的養育の推進に向けて（こども家庭庁）
※4　出典：令和４年度 外国人の子供の就学状況等調査（文部科学省）

PICK UP

高校生年代の子ども・若者への学び支援

現状と課題

支援が途絶え孤立する高校生・若者世代

高校生年代以降の子どもや若者は、義務教育でないことから、家庭が困窮状態にあっても自助を求められる傾向にあり、アルバイトや、家族のケアにも奔走せざるを得ない状況から、学校生活が満足に送れず、高校を中退するケースも多く見られます。
また学習内容だけでなく進路や就職など、支援の専門性が高くなってくることから、担い手が限られ、支援者が足りていないという課題もあります。
さらに、子ども・若者自身も、学校等で「怠けもの」と見られてきたり「どうせ自分はできない」と諦めを繰り返した経験から、意欲そのものが低下（学習性無力感）し、効果的な支援につながらず孤立するケースも多く見られます。

アルバイトに奔走し、学校生活が満足に送れない

「どうせ自分はできない」と諦めを繰り返す

取り組み

高校生・若者の目線で、自立を見据えた学びのサポートを

学校・家庭以外の安心して自分を出せる居場所や、自分らしい未来に向けての一歩を、子ども・若者目線で歩んでくれる大人とともに、社会とつながるスキルと自信を育む支援モデルが広がっています。

特定非営利活動法人 サンカクシャ

子どもの居場所　学びの意欲向上

自分の興味から始める若者の居場所

特定非営利活動法人 サンカクシャは学ぶことや人と接することなどに意欲のない、学習性無力感を感じている若者に対して、支援を届けていくためのモデルとなる事業の開発を行っています。
安心できる居場所で、動画編集、アート、フットサルなど各々の「好き」から「部活動」をつくり、人とつながり活動することで少しずつ成功体験を得て、次の一歩をなんとか踏みだそうとする若者が増えています。

「部活動」を通して様々な大人と交流

認定特定非営利活動法人 CLACK

学習支援　学びの意欲向上

ITの力で困難を抱える高校生に“自走”の力を！

認定特定非営利活動法人 CLACKは、経済的・環境的に困難な状況にある高校生を対象に、無料プログラミング学習支援を対面で行っています。
学校の学びに苦手意識のある生徒でも ITへの小さな興味があれば、大学生や社会人エンジニアが挫折しないよう学びをサポートするだけでなく、多様な社会人に出会う場も提供し、自分の人生を切り開くスキルと自信を育んでいます。
2022年度は支援モデルを確立し、大阪から、東京へと拠点を拡大。そして今後は地方への展開を模索していきます。

参加者の個性やキャリア観をふまえてサポート

Check

各団体の活動内容はベネッセこども基金サイトからご確認いただけます。

PICK UP

社会的養護のもとにある子どもたちの学び支援

現状と課題

コロナ禍における児童養護施設の子どもの学びの現状

児童養護施設は、虐待などを理由に保護者と離れて暮らす子どもたちを養育する施設です。家庭に近い環境で生活を支えていますが、学習サポートまで手がまわらない現状があります。

1 子どもたちが学びに向かうどころではない施設の現状
生活習慣が整っていない子どもも多く、トラブルも頻発。少ない職員数で多くの子どもたちを見るのは大変。学習支援どころではない施設も多い。

2 慢性的な施設職員の不足
欠員がでても施設に採用や広報予算がない。施設に興味のある学生が検索しても、子どもたちの様子や給与面など、求めている情報に到達できない。

3 オンラインでの学びも遅れがち
個人情報の問題やトラブル防止のためスマホやパソコンの使用に制限をかける施設も多い。コロナ禍でオンラインの学びが広がる中、施設では対応が遅れた。

取り組み

「チャボナビ」を活用した施設職員の充足による学習サポートの体制づくり

学びに向かう以前の施設体制を改善するため、求職者と施設をマッチングする社会的養護総合情報サイト「チャボナビ」の認知拡大に力を入れました。

特定非営利活動法人 チャイボラ

支援基盤整備　学びの意欲向上

施設職員の充足とICT活用で施設の子どもの学習サポートへ！

1年目（2020年度）
出張授業でチャボナビの登録者数を増やす
大学や専門学校など資格養成校への出張授業を通して、学生たちに施設の子どもたちや職員の現状を伝えた。チャボナビの登録者数の増加につながった。

2年目（2021年度）
活動エリアの拡大とコロナ禍でのオンライン支援
チャボナビの成果の評判が広がり、関西など東京以外の施設の登録も増えた。コロナ禍でオンライン説明会に移行し、施設のオンライン支援の依頼も増加した。

3年目（2022年度）
ICTを活用した学習モデルづくり
施設の学習状況調査はコロナ禍で延期したものの、ICTを活用した学びモデルのトライアルを実施。自己肯定感の向上につながる検証結果も出はじめている。

保育士等養成校への出張授業の様子

interview

チャイボラの3年間の歩みを振り返る

チャボナビの認知拡大とコロナ禍での取り組み

特定非営利活動法人チャイボラ
代表理事
大山遥さん

会社員時代、教材を寄付しようと児童養護施設へ問い合わせをした際に職員不足の現状を知り、施設職員になるため退職を決意。現在は非常勤の職員として児童養護施設で働きながら、施設職員の確保と定着をサポートする事業を全国に展開している。

――3年前、児童養護施設の子どもの学び支援に、施設職員の不足解消から取り組まれました。

大山さん 児童養護施設に限らず社会的養護施設全般に言えることですが、圧倒的な職員不足と高い離職率が課題です。私も施設職員になってわかったのですが、子どもの学習サポートをしたくても、学習以前の問題がありました。職員ひとりで何名もの世話をするのですが、他人同士の集団生活でトラブルも多く、無事に就寝するまで気が抜けません。

――施設職員を充足させることが子どもの学び支援の体制づくりにつながると考えられたのですね。職員不足の原因は何でしょうか？

大山さん 情報発信の不足です。施設での仕事に興味ある人がネットで検索しても、施設にはホームページがないところもあり、子どもたちの様子や給与など、求めている情報にたどりつけないのです。施設には採用や広報の予算がないことが原因だとわかりました。

――それで社会的養護総合情報サイト「チャボナビ」を開発されたのですね。

大山さん はい。施設で働きたい人が必要な情報にたどり着けることを目的に「チャボナビ」を作りました。最初は都内の一部の施設だけでしたが、今は全国の約3分の1の児童養護施設が登録されています。

――採用や広報の予算がなくても、施設が情報発信できるよう工夫されたとお聞きしました。

大山さん 施設の情報を掲載するだけでなく、大幅改定を行い管理画面から施設が投稿できるようにしました。例えば、日々の子どもたちの様子をブログでアップできるようになりました。採用や広報の予算はなくても、チャイボラを通して求人に必要な情報を発信できます。

――チャボナビのPV（サイトの閲覧された数）も12万と、3年間で随分増えましたよね。

大山さん 当初から大学や専門学校に出張授業することに力を入れていました。施設の実情や仕事のやりがいを伝えるためです。それがチャボナビの認知拡大や登録者の増加にもつながりました。施設の採用にもつながり、2年目には福祉新聞などのメディア、3年目には厚労省の社会的養護魅力発信等事業などに採択されて、一気に伸びました。東京以外の施設からの登録が増えたのも、その頃からです。

――コロナ禍での影響は？

大山さん 学校が休校になってからは大変でした。ただでさえ職員不足なのに、大量の離職者がでた施設もありました。子どもたちは終日施設にいますし、クラスターも発生しました。学習状況の調査を計画していたのですが、タイミング的に難しいと判断しました。ただ複数のICT教材でトライアルを繰り返すなど、関係性のある施設でのスモールテストはしていました。

――3年間が終わりました。これからどのような取り組みをされますか。

大山さん これからも施設の子どもにとってよりよい環境をつくっていきます。職員の充足に留まらず、学習状況調査を実施した上で他の団体や施設と連携して学びモデルに取り組み、子どもたちの声を聞きながら拡大していきます。最近の体験学習では、社会課題に取り組むことで子どもたちが自分たちを客観視したり、自己肯定感が向上することが確認できました。検証を重ねて、学びの意欲が低い子どもたちの自己肯定感を高めていきたいです。

重い病気を抱える子どもの学び支援

重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもに対して、学びに取り組む手助けや意欲を高めるサポートをしている団体の活動を助成しています。

難病の子ども 約12.4万人[*1]

医療的ケア児 約1.8万人[*2]

病気を理由に長期欠席した小中学生約5.7万人[*3]

医療の進歩とともに助かる命が増えた一方で、長期的な治療や医療的なケアが必要な子どもの学びや体験の機会が十分ではありません。
困難を抱える子どもの学びの必要性を多くの人々に知っていただくこと、また困難さの解決に向けた問題提起やユニークな視点を含んだ支援策、同じ課題に取り組む人たちが参考にできるモデルとなる活動を全国に普及させていくことが重要です。

※1　出典：「小児慢性特定疾病児童とその家族の支援ニーズの把握のための実態把握調査の手引き書令和４年３月」（厚生労働省）
※2　出典：「医療的ケア児者とその家族の生活実態調査 令和２年３月」（厚生労働省）
※3　出典：「令和３年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文部科学省）

PICK UP

学びの支援が意欲につながる

現状と課題　つぎつぎ現れる不安

突然病気を発症した子どもは、ショックを受けたままつらい治療を開始。慣れない入院生活に対するストレスや、見た目の変化に対する不安など、心身ともにつらい状況になります。入院生活や療養生活が長くなれば、学校生活に戻れるのか、学校の勉強の遅れはカバーできるのか、進路はどうなるのか、など次への不安も出てきます。
治療ももちろん大事ですが、子どもが子どもらしくその時期を過ごすためには、たくさんの人との関わりや、学びや遊びの体験が重要です。たのしい気持ちを持つことが、治療に立ち向かう意欲も育てます。

取り組み　子どもたちの気持ちや声に寄り添った学びのサポートを

病気に立ち向かう日々も、子どもたちにとってはかけがえのない日々。
充実させるための支援が広がっています。

一般社団法人チャーミングケア

病気への理解支援　調査・啓発

病気のときだっておしゃれしたい！

アピアランス（外見）のケアは、子どもたちの生活の質を上げ、病気に立ち向かう意欲をもつために大事な要素です。そこで、病気のことだけでなく、子どもたちの気持ちを理解し支えていく人材を育成する「チャーミングケア研修」を実施。子どもが講師になることで、本当はどうしてほしいのかという当事者の声を届けられるだけでなく、重い病気を経験した医療体験をプラスに変え、子どもの自己肯定感を高めるきっかけにもなります。

公益社団法人 日本環境教育フォーラム ジャパンGEMSセンター

学習支援　学びの意欲向上

いつでもどこでも体験的学びにアクセス！

カリフォルニア大学で開発された科学・数学の体験学習プログラムGEMS（ジェムズ）。体験をベースにした科学・数学学習によって、基礎学力や自分で考え、学ぶ姿勢を育てられる内容です。これをもとに、病児やきょうだい児が、病室でも楽しめる身近な素材での実験やゲームを動画コンテンツで紹介。楽しいだけでなく、さらに深く考えられるような内容も用意し、「面白い！」「もっとやりたい」気持ちを刺激します。

Check

各団体の活動内容はベネッセこども基金サイトからご確認いただけます。

PICK UP

こどもホスピスに滞在する子どもたちへの支援

現状と課題

病気とともに生きる子どもたちが
学び育つ場所は、
学びや育ちを保障する制度がない

1 子どもの課題

- 成長機会の損失：病気や障がいのため、やりたいことができない
- 社会参画機会の損失：友達と交流ができない
- 親から自立できない（自立機会の損失）

2 保護者やきょうだいの課題

- 手を離せない介護に追われながら、心身ともに背負いこんだり我慢してしまう
- 安心してくつろぐ場所や時間がない

取り組み

「こどもホスピス」をつくることで
学びや育ちを保障する

ホスピス＝がん患者さんの病院と思われがちですが、こどもホスピスは病院ではなく、子どもの学びや育ちを保障し、保護者やきょうだいにも安らぎをもって過ごしてもらう「おうち」です。

認定特定非営利活動法人 横浜こども ホスピスプロジェクト

学びの意欲向上　病気への理解支援

子どもや家族と
地域コミュニティをつなぐ
ハブとしての役割をめざす

病気とともにある子どもたちであっても、遊びたいし、学びたい。そんな当たり前の願いを地域や人との交流を通してかなえるモデルづくりに取り組みました。子どもたちが、保護者やきょうだいと一緒に安心して過ごせる場所を、つくりあげています。

ゆったりと家族で過ごせる うみとそらのおうち

一般社団法人 北海道こども ホスピスプロジェクト

学習支援　学びの意欲向上

子どもとして必要な学びや
遊び、体験、人とのつながりを
享受できる機会を増やす

病気とともにある子どもやそのきょうだいは、ついつい色々なことを我慢しがち。まずは遊びや体験の支援から取り組みました。キャンプやゲームを通して、その子らしさが自然と出てくる、そんな機会づくりを家族と一緒に取り組みました。

北海道にこのような場所を作ろうとしています

2022年度募集および決定助成団体

経済的困難を抱える子どもの学び支援

- 募集期間：2022年11月7日～2023年1月5日
- 応募数：112件
- 採択事業数：6件
- 助成総額：15,103,877円（初年度）
- 助成対象期間：2023年4月1日～2026年3月31日（最大3年間）

募集対象：経済的な理由により学習に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動

団体名	申請事業名	所在地	初年度助成額
認定特定非営利活動法人 茨城YMCA	「モンゴルこどものオルドン」在日モンゴル人の子どもの学習支援・居場所づくり・文化体験を行う事業	茨城県	¥2,050,000
特定非営利活動法人 ABCジャパン	神奈川県・群馬県の外国につながる子どもの状況調査・教育相談とフリースクールのモデル化事業	神奈川県	¥3,625,000
特定非営利活動法人 こどもエンカレッジアート	"負の連鎖"を防ぐ為、離島の生活困窮家庭のヤングケアラーの学習支援及び生活支援事業	鹿児島県	¥3,000,000
佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会	外国にルーツを持つ子どもへの教育支援事業「わーるどりんぐ」	佐賀県	¥777,800
認定特定非営利活動法人 ミタイ・ミタクニャイ子ども基金	横浜市の県営団地における子どもたちの居場所づくりプロジェクト	神奈川県	¥4,111,277
一般社団法人 UMEプロジェクト	経済的困難を抱える母子施設のこどもたち（小学生～高校生）のための地元大学と連携した支援ネットワークモデルの構築	広島県	¥1,539,800

重い病気を抱える子どもの学び支援

- 募集期間：2022年6月20日～2022年8月31日
- 応募数：34件
- 採択事業数：7件
- 助成総額：10,753,788円
- 助成対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

募集対象：重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動

団体名	申請事業名	所在地	初年度助成額
一般社団法人 Orange Kids' Care Lab.	医療的ケア等がある子どもと家族の災害学習キャンプの開催	福井県	¥2,000,000
一般社団法人 在宅療養ネットワーク	医療を必要とする子ども達が、多様な就学先の中から状況にあった学びを自分で選ぶためのコーディネートガイド・事例集の作成	香川県	¥1,592,840
認定特定非営利活動法人 シャイン・オン・キッズ	難病とたたかう入院中のこどもの勉学意欲を高める「まなびのビーズ」開発事業	東京都	¥1,999,910
特定非営利活動法人 東京こどもホスピスプロジェクト	小児がんや難病等の子どものための、学びや遊びの支援事業	東京都	¥1,368,600
特定非営利活動法人 福岡子どもホスピスプロジェクト	障がいや重い病気を持つ子どもが、地域の中で共に学び遊び、ワクワクと笑顔が溢れる地域社会への仕組づくり	福岡県	¥1,055,800
特定非営利活動法人 未来ISSEY	長期入院・療養を経験する高校生の在籍校での学びにつなぐ事例集作成事業	香川県	¥1,168,000
認定特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	病気のある子どもの職業観・勤労観を育む「先輩のおしごと！」ビデオ配信&インタビュー	愛媛県	¥1,568,638

※ 2022 年度は「被災した子どもの学びや育ちの支援」における緊急助成はありませんでした。

Pick up！ 発信活動

子どもの声を聴き
すべての子どものウェルビーイングを共に考える
ミニシンポジウムを行いました。

子どもを取り巻く社会課題の発信にも力を入れた2022年度。
子ども支援の「今」をとらえながら、
多職種の方と学びあう場となりました。

当財団では、子どもの課題に関心を持ち、関わる大人を増やすことも、大事な活動の一つと位置付け、子どもを取り巻く社会問題を発信し、解決策を共に考えることを目指したミニシンポジウム「ベネッセこども基金 MeetUp」を行っています。

2022年度は2回にわたって「子どもの権利」をベースに子どもの声を聴く重要性と、これからのこども支援のあり方を考える会をオンラインで行い、全国から多職種の方にご参加いただきました。近年「子どもの権利」という言葉や「子どもの声を聴く」というフレーズをよく耳にするようになりました。また、こども基本法も成立し、子どもの権利の精神に基づいた政策が推進されはじめています。

「子どもたちが自らの可能性を広げられる社会」の実現を目指す私たちベネッセこども基金も、子どもの最善の利益を考え、子ども視点で成長を後押しできる社会づくりの一助となるよう、引き続き活動してまいります。

MeetUp 2022 #1

子どもの声を聴くってどういうこと？
子どもの権利と子どもアドボカシー

（2022年11月19日）

子どもの権利の専門家から、なぜ子どもの権利を保障するべきなのか、また子どもの声を聴く活動（子どもアドボカシー）の実践者から、自治体や海外の子どもの声を聴く先進事例、そして当事者の声や子どもの声を聴く実践例をお話しいただきました。非常に多くのお申し込みをいただき、社会の関心の高さがうかがえました。

参加者の声

子どもの声を聴くことや子どもの権利は漠然とは把握していましたが、「子どもの声を聴くこと」についての大切さと、現状を知ることができ、自分に何ができるのか考えるきっかけになりました。

実際にアドボケイトとして活動されている方々のお話は、とても説得力があり、また当事者の声を聞く機会が今までほとんどなかったので多くの知見が得られた。

参加者数：
リアルタイム約130名＋アーカイブ視聴466回※

登壇者（団体）名：
- 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 西崎萌氏
- 一般社団法人子どもの声からはじめよう 渡辺清美氏
- 一般社団法人子どもの声からはじめよう なおと氏

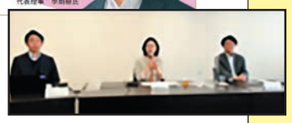
MeetUp2022 #1の様子 →

MeetUp 2022 #2

これからの子ども支援のあり方とは
―― こども基本法・こども家庭庁の動きから ――

（2023年2月4日）

こども基本法の成立、こども家庭庁の発足という、こども政策の大きな動きの中心でいらっしゃる方にご登壇いただき、報道などでは捉え切れない政策の背景課題や経緯、そして子ども支援に携わる者の今後のあり方についてお話しいただき、視聴者を交えた活発な対話が繰り広げられました。



参加者の声

国や行政の動きは追っているが、文字だけではわからないことが多く、背景にある考えや一歩踏み込んだ話を行政の中心にいる方と現場を見ている方両方から聞けて、質問もできよかった。

こども家庭庁の仕組みを理解でき、また困難を抱える子どもたちを支える団体との連携など自治体として何をすべきか、大変参考になった。

参加者数：
リアルタイム約130名＋アーカイブ視聴250回※

登壇者（団体）名：
- 参議院議員・小児科専門医・認定内科医 自見はなこ氏
- 認定特定非営利活動法人 Learning for All 代表理事 李炯植氏

MeetUp2022 #2の様子 →

※2023年3月現在

2022年度　決算報告

貸借対照表の要旨（2023年3月31日現在）

単位（円）

		科目	金額
資産の部	1	流動資産	66,385,942
		現金預金	66,307,650
		貯蔵品	78,292
	2	固定資産	345,191,460
		特定資産（事業積立資産）	344,990,710
		その他固定資産（什器備品）	200,750
	資産の部合計		411,577,402

		科目	金額
負債の部	1	流動負債	17,748,896
		未払金	17,683,020
		預り金	65,876
	負債の部合計		17,748,896
正味財産の部	1	指定正味財産 （うち特定資産への充当額）	344,990,710 （344,990,710）
	2	一般正味財産	48,837,796
	正味財産の部合計		393,828,506
	負債及び正味財産合計		411,577,402

正味財産増減計算書の要旨（2022年4月1日～2023年3月31日）

単位（円）

		科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ.一般正味財産増減の部	1.経常増減の部	(1) 経常収益	159,347,188	158,077,076	1,270,112
		受取寄付金	159,102,022	158,072,362	1,029,660
		受取寄付金	5,792,389	6,450,865	△ 658,476
		受取寄付金振替額	153,309,633	151,621,497	1,688,136
		雑収益	245,166	4,714	240,452
		(2) 経常費用	160,971,131	158,720,427	2,250,704
		事業費	139,347,188	138,077,076	1,270,112
		支払助成金	63,964,841	62,803,399	1,161,442
		給料手当	24,211,305	24,595,744	△ 384,439
		支払負担金	13,821,880	8,952,360	4,869,520
		委託費	10,374,061	11,785,319	△1,411,258
		印刷製本費	7,620,379	13,402,473	△5,782,094
		その他事業費（通信運搬費、制作費など）	19,354,722	16,537,781	2,816,941
		管理費	21,623,943	20,643,351	980,592
		委託費	6,492,706	6,936,201	△ 443,495
		給料手当	6,052,825	6,018,677	34,148
		賃借料	1,855,604	1,743,809	111,795
		制作費	1,430,440	1,507,440	△ 77,000
		法定福利費	1,005,642	1,028,132	△ 22,490
		その他管理費（印刷製本費、報酬など）	4,786,726	3,409,092	1,377,634
		評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,623,943	△ 643,351	△ 980,592
		評価損益等計	0	0	0
		当期経常増減額	△ 1,623,943	△ 643,351	△ 980,592
	2.経常外増減の部	(1) 経常外収益	0	0	0
		(2) 経常外費用	0	0	0
		当期経常外増減額	0	0	0
		税引前当期一般正味財産増減額	△ 1,623,943	△ 643,351	△ 980,592
		当期一般正味財産増減額	△ 1,623,943	△ 643,351	△ 980,592
		一般正味財産期首残高	50,461,739	51,105,090	△ 643,351
		一般正味財産期末残高	48,837,796	50,461,739	△ 1,623,943
Ⅱ.指定正味財産増減の部		受取寄付金	161,996,000	150,000,000	11,996,000
		一般正味財産への振替額	△ 153,309,633	△ 151,621,497	△ 1,688,136
		当期指定正味財産増減額	8,686,367	△ 1,621,497	10,307,864
		指定正味財産期首残高	336,304,343	337,925,840	△ 1,621,497
		指定正味財産期末残高	344,990,710	336,304,343	8,686,367
Ⅲ.正味財産期末残高			393,828,506	386,766,082	7,062,424

財団概要

名称	公益財団法人 ベネッセこども基金
所在地	〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
設立年月日	2014年（平成26年）10月31日 ※公益財団法人移行日 ： 2015年（平成27年）4月1日

役員

代表理事・理事長	五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
代表理事・副理事長	福原 賢一	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
理事	耳塚 寛明	お茶の水女子大学　名誉教授 青山学院大学　コミュニティ人間科学部　客員教授
理事	小見山 智恵子	国際医療福祉大学生涯学習センター 看護部門統括責任者
理事	青柳 光昌	一般財団法人　社会変革推進財団 代表理事専務
理事	マセソン 美季	国際パラリンピック委員会 理事
理事	岡田 晴奈	株式会社ベネッセホールディングス　常務執行役員 サステナビリティ推進本部長
監事	尾尻 哲洋	税理士

評議員

評議員	髙野 一彦	関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科 教授
評議員	宮城 治男	特定非営利活動法人エティック 創業者
評議員	佐久間 貴子	株式会社ベネッセスタイルケア　取締役・常任執行役員

※2023年7月現在

2023年7月
発行：公益財団法人 ベネッセこども基金
写真　表紙：枦木 功（nomadica）
イラスト：米村知倫
アートディレクション：細山田光宣（株式会社 細山田デザイン事務所）
デザイン：鎌内文（株式会社 細山田デザイン事務所）
印刷・製本：株式会社 協同プレス

公益財団法人　ベネッセこども基金WEBサイト

https://benesse-kodomokikin.or.jp/
活動を紹介するサイトです。
助成の応募情報などもこちらからご覧ください。

公益財団法人　ベネッセこども基金公式Facebook

https://www.facebook.com/
benessekodomokikin2014/

ベネッセこども基金公式YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/channel/
UChU6G-_PuSGA12YHoEBjv-w

（公財）ベネッセこども基金note

https://note.com/kodomokikin